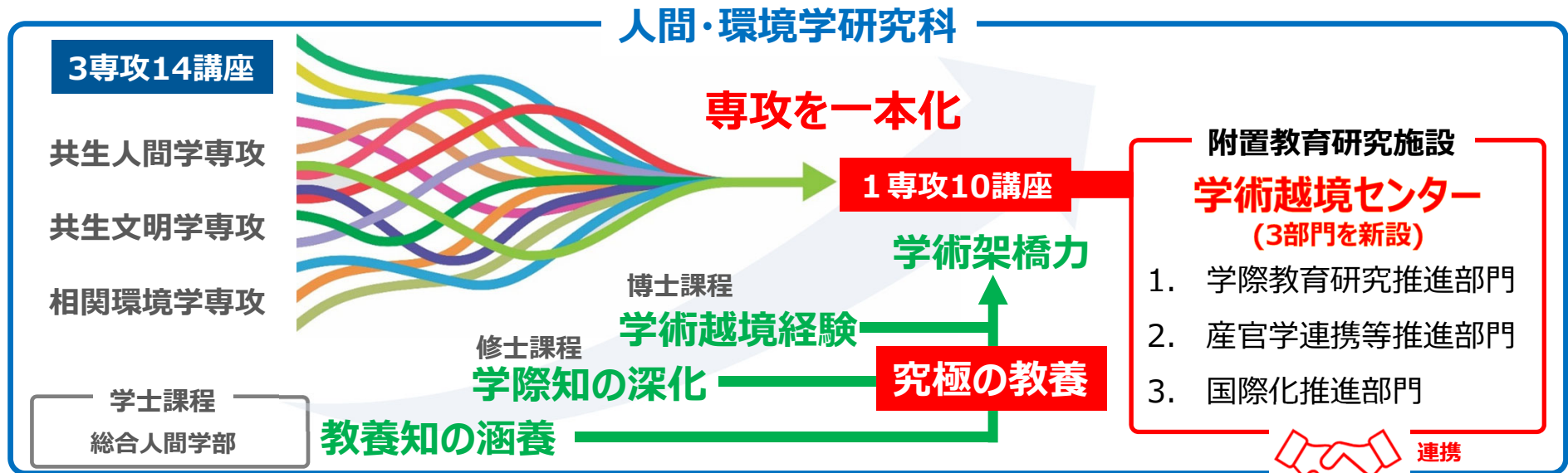


再編の概要

- ✓ 現行の3専攻14講座を1専攻10講座に一本化（1専攻化・講座の再編による学際教育研究推進体制の充実）
- ✓ 附置教育研究施設として「学術越境センター」を設置（専任教員を配置し学内外との連携・融合の強化）



- **急速な変化**の渦中にある日本、世界は、**様々な社会課題**に直面している。この危機に対して、非連続的な**イノベーション**により**課題解決に貢献**するためには、学術分野を橋渡しできる「**学術架橋力**」を有する**人物育成と輩出**が喫緊の課題
- **一本化により**、学内外教育組織・支援組織と**連携**しつつ、人社系と理系研究の**融合**を加速し、**教養知を基盤とした「学術架橋力」**を備え、将来、Society5.0に求められる人文・社会科学と自然科学の知を融合した「**総合知**」の創出と活用に**貢献**できる人物を**輩出**

人と社会の未来研究院

人社系学際研究におけるハブ的役割
学際研究企画・新分野開拓
研究成果の可視化・発信

国際高等教育院

総合知を養う統合科目や
国際教養科目の提供

産学連携本部

産官学連携PJ推進

学内他部局

部局の教育研究を越境
多様な研究領域との融合

学術研究支援室

文理融合促進
研究力強化支援

国内外大学・研究機関

部局の教育研究を越境

組織再編の概要(3つの柱: 1専攻化、講座再編、学術越境センターの新設)

現状(令和3年10月1日現在)

人間・環境学研究科(3専攻14講座)

専攻・講座の組織的制約

- ・専門に近い教員が別専攻に所属
- ・専攻を越えた交流への組織的制約
- ・講座間の交流の停滞
- ・カリキュラムの体系性の欠如
- ・専攻定員と志望者のズレ
- ・講座の学際性の希薄化

共生人間学専攻(修士69, 博士28)

人間社会論講座
思想文化論講座
認知・行動科学講座
数理科学講座
言語科学講座
外国語教育論講座

共生文明学専攻(修士57, 博士25)

現代文明論講座
比較文明論講座
文化・地域環境論講座
歴史文化社会論講座

相関環境学専攻(修士38, 博士15)

共生社会環境論講座
分子・生命環境論講座
自然環境動態論講座
物質相関論講座

支援組織(部局内センター)

学際教育研究部(4部門)

兼任教員主体で部局内事業に限定

大学院教育研究推進部門
学部教育研究推進部門
講演会・地域連携等推進部門
広報活動・プロジェクト等推進部門

兼任教員による運営
専任: 1名の若手教員(講師)のみ

- 1専攻化
- 講座の再編成

- 学術越境センターの設置

再編後(令和5年4月1日現在)

人間・環境学研究科(1専攻10講座)

1専攻化・講座数減による 学際教育研究推進体制の充実

- ・テーマを共有する複数分野の教員による講座編成
- ・講座間の交流の促進
- ・体系的カリキュラム構築
- ・適正で柔軟な定員管理
- ・講座内での学際教育の強化

人間・環境学専攻(修士164, 博士68)

数理科学講座
人間・社会思想講座
芸術文化講座
認知・行動・健康科学講座
言語ダイナミクス講座
東アジア文明講座
共生世界文明講座
文化・地域環境講座
物質科学講座
地球・生命環境講座

学際知の
再編成

支援組織(附属教育研究施設)

学術越境センター(3部門)

専任教員を配置し学内外との連携・融合を強化

学術架橋力の
養成・総合的支援

学際教育研究推進部門
産官学連携等推進部門
国際化推進部門
3名の教員(1名新規要求)
外国人教員
2名の若手専任教員(講師)
兼任教員(10名)
プロジェクト特定教員

情報学研究科の改組イメージ

現行

専攻

知能情報学専攻
〔修士入学定員:37〕

社会情報学専攻
〔修士入学定員:36〕

先端数理科学専攻
〔修士入学定員:20〕

数理工学専攻
〔修士入学定員:22〕

システム科学専攻
〔修士入学定員:32〕

通信情報システム専攻
〔修士入学定員:42〕

情報学研究科

改組後

情報学専攻（1専攻化）

〔修士入学定員:240〕(+51)
(学生/教員比=2.0)

情報学研究科



兼務

国際高等教育院
(CIREDS)

農学研究科

医学研究科

学術情報メディアセンター

医学部附属病院

化学研究所

防災研究所

生存圏研究所

協力
講座

デザイン学

リーディング大学院プログラム

工学研究科

教育学研究科

- ・ 従来の専攻で実施してきた教育を維持しながら、データ科学のカリキュラムを導入
- ・ データ科学の高度な教育を多面的にサポート
- ・ 学生定員の一体的・柔軟な運用 → 学生の志願状況をふまえた受入

11